

## UA（緊急行動）が50周年を迎えました！



1970年代、アムネスティ国際事務局資料室で打ち合わせ中の職員

1972年、アムネスティは軍事政権下のブラジルで拷問を受けるおそれがある被收容者を支援する上で、より早く人びとに働きかけ、より多くの行動に結びつける方法はないか検討しました。そこから生まれたのが Urgent Action (UA, 緊急行動) でした。

アムネスティが初めて発行した UA は、1973年ブラジルの大学教授バシリオ・ロシさんが拷問を受けているという情報がロンドンのアムネスティ国際事務局に届いたことがきっかけでした。

当時の国際事務局の職員数は、調査員を含め20人ほどで活動資金も限られていました。ファックスもメールもインターネットもない時代ですから、調査活動には時間も手間もかかりました。しかし、ロシさんのために行動したいという強い思いがあり、1973年、初の UA が発行されました。

UA でロシさんの釈放を訴えたことで、拘束中のご本人からは自身の状況を知らせる手紙が届き、さらにその年の10月には、ロシさんが釈放されました。その12年後の1985年、ブラジルの軍事政権が崩壊しましたが、その年にアムネスティ・ブラジル支部の事務局長になったのがロシさんです。

UA の件数としては、1973年に11件、1997年には1200件の緊急行動を呼びかけました。

その後、アムネスティ国際事務局の働きかけもあり、各支部でも強力な活動手段として UA が定着し、各支部の UA 会員も増加してきました。

## メキシコ：検察 フェミサイド被害者家族に謝罪



メキシコ州司法省検察庁は、フェミサイド（女性を標的とした殺人）や拉致の被害者家族に公的な場での謝罪を約束していたにもかかわらず、昨年11月16日、検察はその約束を反故にしました。これに対して市民や市民団体から激しい抗議の声が上がり、3カ月あまり経った今年2月28日、ようやく検察側は被害者家族への謝罪文を作成し公表したのです。

メキシコではフェミサイドや女性の拉致事件が多発する中、検察当局による証拠品の紛失や捜査の打ち切りなどが頻繁に発生してきました。その結果、被害者家族自らが、多大な時間と手間をかけて犯人捜しをする羽目になることもありました。このような状況の中で検察への批判はさらに強まり、当局はフェミサイド被害者家族への公での謝罪に追い込まれました。

そして、被害者家族やアムネスティを含む多数の支援者による当局への働きかけも功を奏し、2月28日、メキシコ州の検察庁による謝罪が実現しました。

今回、検察局が謝罪文を作成・公表したことは、国に誠意ある対応を求めてきた被害者家族らにとって一つの前進です。ただ今後、被害者家族は、加害者の告発や包括的な賠償請求に向けた準備を進める必要があります。メキシコ州におけるジェンダーに基づく暴力問題の解決には、まだまだ時間がかかりそうです。

今回の謝罪でアムネスティは「反フェミサイド運動」の第一段を終えます。第二段は4月初旬ごろから始める予定です。

## チリ:治安部隊員の暴行疑惑 再捜査へ

抗議活動中のモイセス・オルデネスさん（55歳）への暴行に関わったとされる治安部隊員に対する再捜査を問う裁判で、サンディエゴの裁判所は2月24日、治安部隊員7人の再捜査を命じました。捜査は少なくとも90日間続けられます。

2019年10月中旬、数百万人もの市民がチリ全土を埋め尽くし、年金や健康保険をはじめとする社会保障の公正化と経済的権利を求めました。セバスチャン・ピニェラ大統領は緊急事態宣言を発令した上、治安部隊を動員して抗議デモの鎮圧を図りました。

アムネスティはチリに危機管理チームを派遣し、人権侵害や国際法違反となる治安部隊が取った行動の調査に乗り出しました。1年間におよぶ調査の結果、10月18日から11月30日の間に行われた当局による12件の殺害、拷問、傷害が明らかになりました。

オルデネスさんは2019年10月にあった抗議デモの様子を携帯電話で撮影していたところ、突然、警官数人に襲われました。胸ぐらをつかまれ、警棒で殴りかかってきました。地面に倒れても暴力は収まらず、オルデネスさんが立ち上がったとき、その顔は血まみれでした。その後、オルデネスさんは拘束されましたが、暴行の一部始終をテレビカメラが捉えていたのです。その後、オルデネスさんは病院へ搬送されて治療を受けましたが、殴られた左目の視力を失いました。

検察は、暴行に関わった13人を特定し、うち5人を暴行に関与したとして、残る8人は暴行を止めなかったとして、それぞれ起訴しました。昨年12月1日には、13人のうちの7人に対し、捜査の継続が発表されましたが、4日後、組織犯罪担当の副検察官が7人に対する捜査の打ち切りを宣言したのです。オルデネスさんの家族や弁護団が提出していた訴状に対する回答もないままでした。

今回は裁判所が7人の再捜査を命じたことで、オルデネスさんとその弁護団にとっては正義への道が開けたと言えます。

オルデネスさんのUAに参加していただいたすべての皆さんに感謝いたします。ありがとうございました。

## ロシア連邦:ウクライナ人の訴え 認められず

ロシア連邦南部ブリヤート共和国の最高裁判所は2月7日、ロシア軍の信用を失墜させたとして科された罰金は不当だとするウクライナ人オレクサンドル・マルチェンコさんの訴えを退ける判決を言い渡しました。マルチェンコさんは控訴する予定です。

前回の上訴後、当局は理由をでっちあげて6カ月間、マルチェンコさんを勾留しました。その間、マルチェンコさんは家族と接触することができず、今も接触できない状態が続いています。

弁護人によると、マルチェンコさんは2018年12月、ウクライナの首都キーウからロシアに立ち寄った後ドネツク州に入ったとき、覆面をした男たちに拉致されました。親ロシア派支配下の「ドネツク人民共和国」に運ばれ、地下室に監禁されました。その後、電気ショックなどの拷問を受け、ビデオカメラの前でスパイ容疑を認める自白文を読み上げさせられました。

2019年2月、マルチェンコさんはロシア連邦保安庁に引き渡された後、クラスノダール地方の保安庁事務所に連行され、そこでも繰り返し尋問され、自白を強要されたのです。

2019年5月、マルチェンコさんは密輸の罪で実刑2カ月の判決を受けましたが、拘留期間は数回延長されました。さらに2019年12月、スパイ容疑で再び起訴され、2020年11月、スパイ罪で10年の流刑判決を言い渡され、控訴は棄却されました。

■支援してください。

ブリヤート共和国の検察官にマルチェンコさんの非暴力で公正な対応を求めてください。要請文は、[こちらのウェブサイト](#)（またはインターネットで「アムネスティマルチェンコさん」で検索）の例をご利用ください。多くの方のご支援をお待ちしています。

### UA ニュース

発行:アムネスティ・インターナショナル日本

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-12-14 晴花ビル7F

TEL:03-3518-6777 FAX:03-3518-6778

E-mail:uaoffice@amnesty.or.jp

UA年会費:1500円

郵便振替:00120-9-133251

加入者名:公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本